

ちよんといっしよ

第二〇六号 縁の船頭

石上女史は面白いことを言ってみえます。

佛様も意地悪で御縁を結んでくださるなら、もう少し

平穩で楽な人生を送らせて下さってもよさそうなのですが、苦しみだけ苦しませ、悩むだけ悩まして、もう限界、もう駄目と、布団を被って不貞寝するほどの剣が峰にまで私を追い詰め、**白旗を掲げようとする瞬間に、救いの手を差し伸べて下さっているのが判然とわかる**、そのような繰り返しです」と、私の経験と同じ内容にびっくり致しました。自分の都合ばかりにこだわれば我欲・我執に囚われ身動きできなくなってきました。背伸びするも良いが永くは続くまい。

原発処理費四十兆円の記事を見て驚きました。水力・火力よりも原発は安いと言った国は大きな嘘をついた訳です。既に原発の安心・安全の神話は崩れてしまいましたが掛かる費用四十兆円を国民の人口で割ると一人の負担額が三十二万円となるそうです。原発を奨励した国会議員のまずはボーナスの支給を止め支出の穴埋めをさせるべきでしょう。少しは嘘の責任を取らせないと、失敗を重ねても平気な顔をします。責任を取れない様な議会は必要が無くなるのではなからうか。国会離れの国民が増えればもっと議会がおろそかになり、議員の質の低下は否めません。

「心随萬境 転転处実能幽随流 認得性無喜亦無憂」と先師の言葉

（こころはまんきやうにしがたつてんず

てんてんてんころじつによくゆうなり

ながれにしたがつてしよをにとくすれば

ようごびもなくまたうれいもなし

があります。武田鏡村師は言う 私たちの心は喜怒哀楽を繰り返していますが、それはただ、縁、と

いう変化する対象にに応じて、喜んだり、悲しんだりしているだけです。かといって無感動になれという事ではありません。喜ぶときは心から喜び、悲しむときは心から悲しむ。しかし、その感情に囚われずに、喜び、悲しみ切ったら、それをサラリと流して、心を転じることです。心は、縁に随って転じるだけです。」と、八苦七難等が我々に覆いかぶさる時、果たして相談できる人がいるだろうか。親身になって頂ける方がいるであろうか。逆**に手を差し伸べる力量が自分にあるだろうか。思い悩むところ**です。縁に随ってとは言うものの、その時々に応じて、果たして良き縁に恵まれるであろうか心配の種は尽きません。懺悔文の中に身・口・意の三つの行いによって善と惡に分けられ、多くは懺悔しなくては済まされない結果を生んでしまうからです。日頃の信頼こそが助け合いの原点であると思えますし、**長い間の付き合いが人と人の結びつきを厚くしていくものだと思っています**。三千院の御住職の話だったと思いますが 我々は皆、泥佛である、泥を洗い落とせば佛、佛に成れる」と、衆生の中にあつて努力精進するから佛に成る意味があり、仏の世界に居れば佛を目指す必要も無い訳です。平家物語に 佛も昔は凡夫なり、われらもついには佛なり、いずれも仏性具せる身を、隔つるのみこそ悲しけれ」と髪を下ろして仏門に入つたと。大間は一〇八の煩惱があるようですが、泥は即ち貪瞋痴の三毒の事であり、熱海の海岸で寛一のお宮がダイヤモンドに目が眩んだように、煩惱の火で目の前が見えなくなってしまうのです。己が心を自由自在に操り、変幻自在に自分をコントロールし、必要とされようがされまいが、**佛に失礼が無いように生きたいものです**。

六道巡り大祭は二十三日です。

二十九年四月一日

善書院善入院油掛地藏尊